

事業概要シート

施策 2003 ごみの減量化と適正処理の推進 <>の金額 補正予算要求時…当初・繰越予算の合計額
 新年度予算要求時…当初・繰越・補正予算の合計額

事業名	ふれあい収集事業	現状維持	予算額	
				3,613 千円
事業期間	平成28年度 ~		<< 3,511 >>千円	
根拠法令 要綱等	ふれあい収集事業要綱	財 源 内 訳	国庫支出金	千円
			県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	3,613 千円
			一般財源	0 千円

【事業の目的・概要・対象】

ふれあい収集は、決められた排出場所までごみを持って行くことができない高齢者や障害者を対象に、玄関先まで回収に向く制度で、平成30年7月末現在の対象者は154名である。見守り活動として、希望者には声掛けを行っており、対象者に不測の事態があった場合は、本人が指定した親族やケアマネジャー等に通報している。
 超高齢化社会や核家族化が進むにつれて、今後も対象者は増加していくと思われるが、高齢者世帯のごみ屋敷化問題等の対策として重要な施策となっている。

住みよい未来大村市を目指します【利用までの流れ】

ごみ集積所まで出すことが困難な方

対象条件

- ①要支援・要介護の認定者、生活総合事業の対象者
- ②身体障害者手帳等の交付を受けている者
- ①②に準ずる人で市長が認める者



【背景】

平成28年6月から開始した制度で、現在は2名の非常勤職員が軽ダンプ1台で回っているが、近い将来の事業拡大も想定される。また、市の重点施策として、平成29年7月から、燃やせるごみのステーション化推進事業に取り組んでいるが、ステーションまでごみを持って行くことができない高齢者や障害者の対策としても有効な事業となっている。

担当課	市民環境部 環境センター	課長	濱崎 賢二
担当者	本川 健二	問合せ先	0957-54-3100

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	ふれあい収集件数	目標値	100 (96)	130 (144)	160	190	190
②		目標値					

【成果指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①		目標値					
②		目標値					

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	合計
事業費	4,771	3,372	3,511	3,613	3,611	3,611	22,489
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他		3,372	3,511	3,613			10,496
一般財源	4,771	0	0	0	3,611	3,611	11,993
人件費		4,731	4,727	4,727	4,727	4,727	23,638
職員(人)		0.65人	0.65人	0.65人	0.65人	0.65人	3.25人
時間外勤務(h)		2h					2h
嘱託員(人)							0.00人
フルコスト	4,771	8,103	8,238	8,340	8,338	8,338	46,127

妥当性 (市の関与)	今後、可燃ごみのステーション化を推進することとしているが、ステーションまでのごみ出しが困難な世帯のふれあい収集は必要不可欠な事業である。家庭から排出される廃棄物については、市の責任で処理しなければならない。
有効性 (施策貢献度)	ステーション化の促進に繋がる事業である。
効率性 (コスト)	高齢化社会が進むにつれて、コストは増大していく見込となる。

1次評価	担当者記載のとおり
2次評価	1次評価のとおり

評価調整 委員会評価	
---------------	--